市内における中小企業景況調査実施概要

松 山 商 工 会 議 所

１．目　的

地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行い、当所の指導資料及び中小企業に対し情報を提供することを目的に調査。

２．実施回数

四半期毎に調査（年４回実施）

３．調査対象期間

令和５年１～３月期実績及び令和５年４～６月期見通しについて調査。

４．調査日

令和５年２月１６日（木）～３月１日（水）

５．調査対象

当所議員、地域振興委員等１８６事業所

６．調査方法

職員によるヒアリング調査等

７．調査データについて

「業況」・「売上」・「資金繰り」・「採算」の集計値を DI で表示（前年同期との比較）。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

[お問い合わせ先]
松山商工会議所　地域振興部
TEL：９４１－４１１１

中小企業景況調査　結果概要

令和５年１月～令和５年３月期

８．回　答　数：１８６企業のうち１３１企業（回答率７０．４％）

＜産業別回答状況＞

産　業	調査対象企業数	回　答　数	回　答　率（％）
製　　造	２６	１７	６５．４
建　　設	２１	１６	７６．２
卸　　売	２７	２０	７４．１
小　　売	４５	３４	７５．６
サービス	６７	４４	６５．７
合　　計	１８６	１３１	７０．４

中小企業景況調査　調査結果

令和５年１月～令和５年３月期

市内業況は改善の動き

～全産業の売上 DI は 13.7 ポイント、採算 DI は前期より 3.7 ポイント改善～

前年同期	令和４年 １月～令和４年 ３月期
前　　期	令和４年 10 月～令和４年 12 月期
今　　期	令和５年 １月～令和５年 ３月期
来　　期	令和５年 ４月～令和５年 ６月期

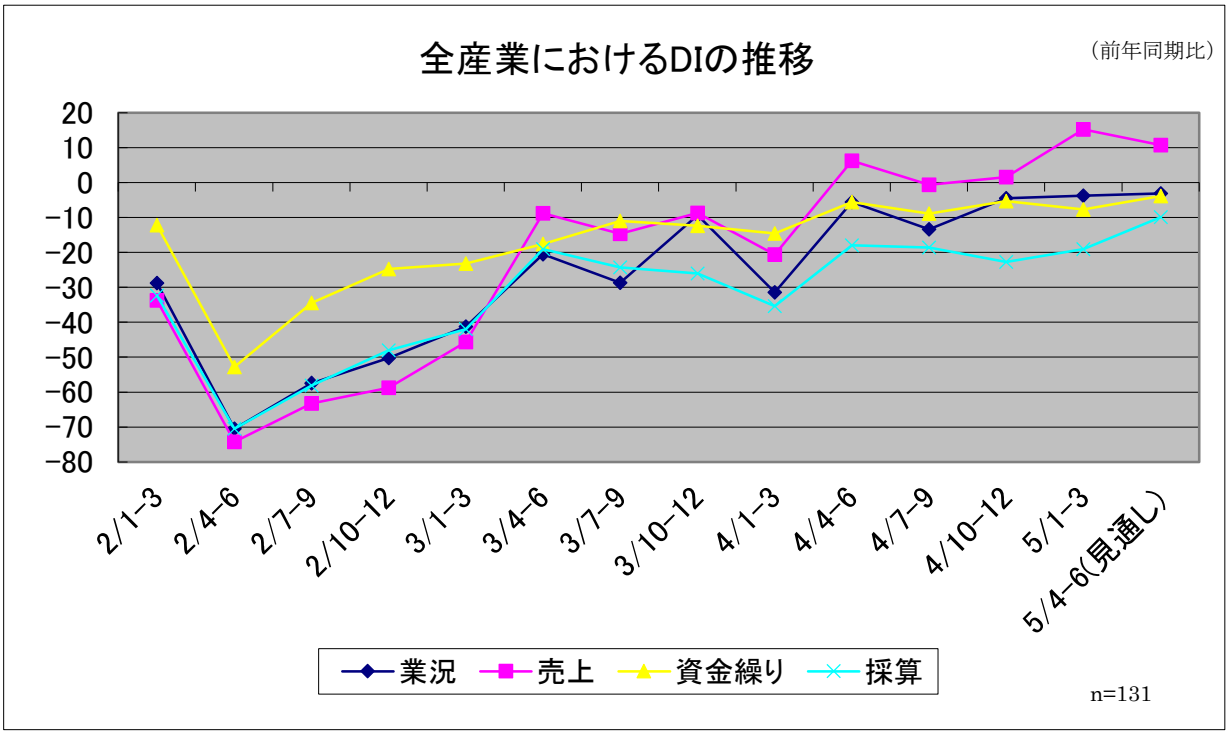
＜調査結果概要のポイント＞

全産業における今期の DI は前期と比べて、

業況 DI、売上 DI、採算 DI は改善、資金繰り DI は悪化となった。

全産業における来期の見通し DI は今期と比べて、

業況 DI、資金繰り DI、採算 DI は改善、売上 DI は悪化となっている。

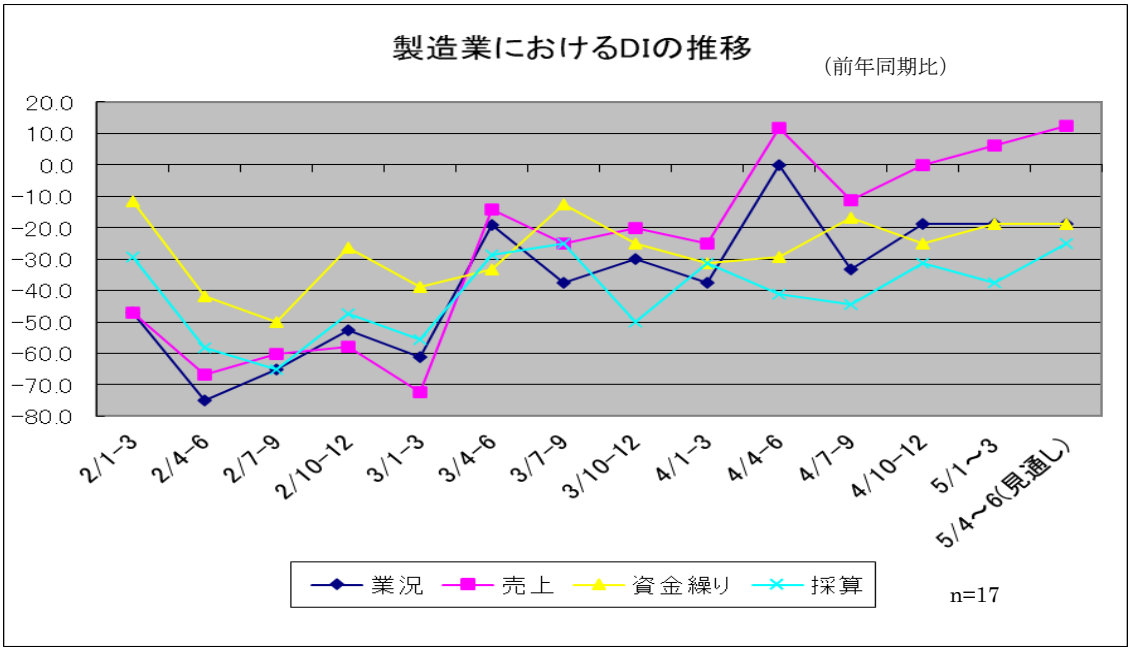


（1）製造業の動向

製造業では、前期と比べて売上 DI、資金繰り DI が改善、業況 DI、採算 DI が悪化となった。

業況 DI は 0.1 ポイントの悪化で▲18.8、売上 DI は 6.3 ポイントの改善で 6.3、採算 DI は 6.3 ポイントの悪化で▲37.5、資金繰り DI は 6.3 ポイントの改善で▲18.7 となった。

来期見通しについては、売上 DI は 6.2 ポイント、採算 DI は 12.5 ポイントそれぞれ改善、資金繰り DI と業況 DI は横ばいとなっている。

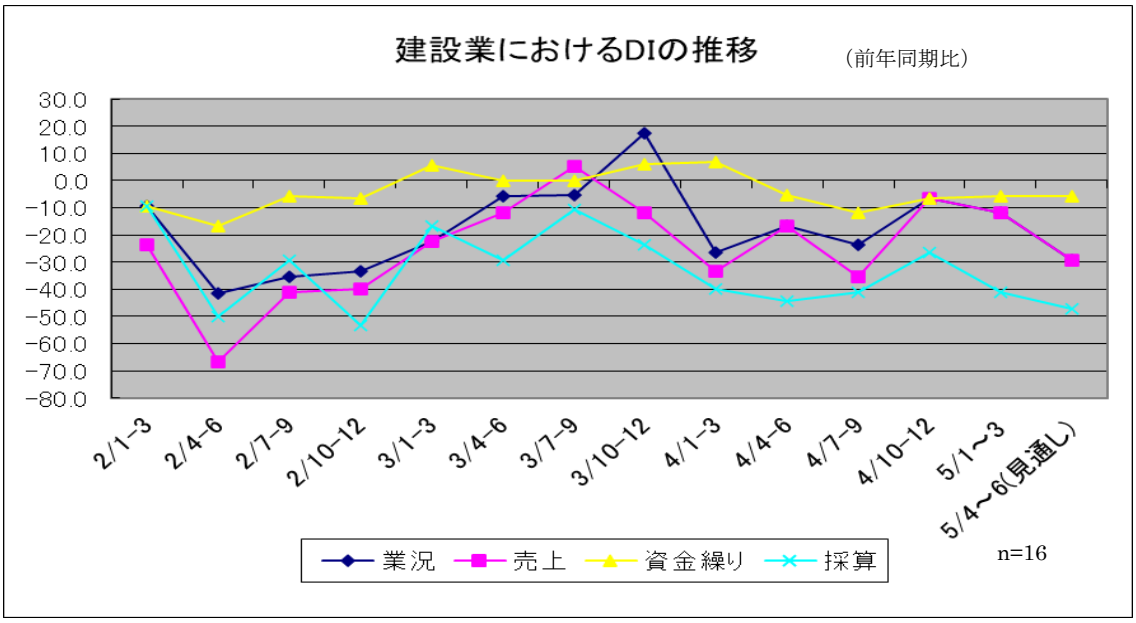


（2）建設業の動向

建設業では、前期と比べて資金繰り DI が改善、売上 DI、業況 DI、採算 DI が悪化となった。

資金繰り DI は 0.8 ポイントの改善で▲5.9、売上 DI は 5.0 ポイントの悪化で▲11.7、業況 DI は 5.2 ポイントの悪化で▲11.8、採算 DI は 14.6 ポイントの悪化で▲41.2 となった。

来期の見通しについては、資金繰り DI は横ばい、売上 DI は 17.7 ポイント、業況 DI は 17.6 ポイント、採算 DI は 5.9 ポイントそれぞれ悪化となっている。

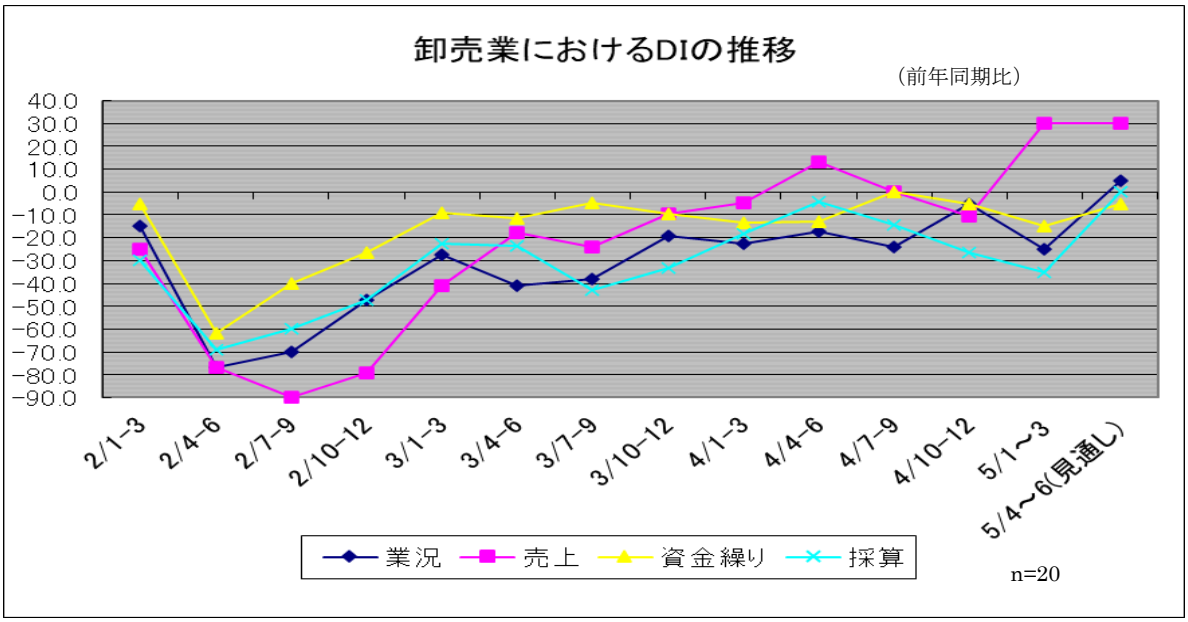


（３）卸売業の動向

卸売業では、前期と比べて売上 DI が改善、業況 DI、資金繰り DI、採算 DI が悪化となった。

売上 DI は 40.5 ポイントの改善で 30.0、業況 DI は 19.8 ポイントの悪化で▲25.0、資金繰り DI は 9.8 ポイントの悪化で▲15.0、採算 DI は 8.7 ポイントの悪化で▲35.0 となった。

来期見通しについては、業況 DI は 30.0 ポイント、資金繰り DI は 10.0 ポイント、採算 DI は 35.0 ポイントのそれぞれ改善、売上 DI は横ばいとなっている。

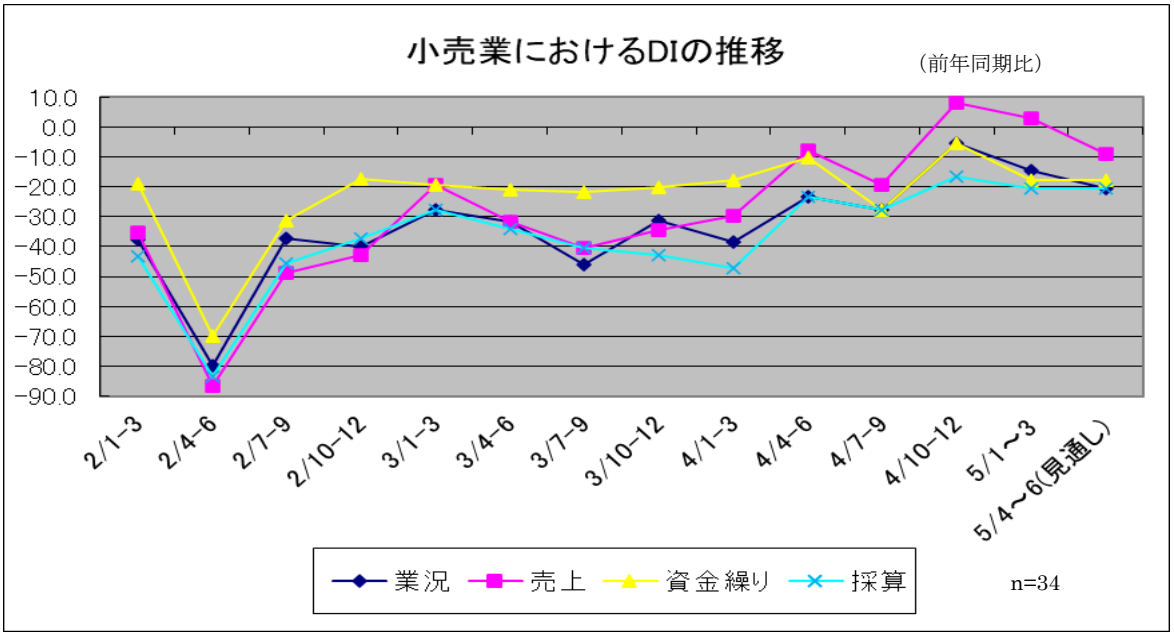


（４）小売業の動向

小売業では、前期と比べて全ての DI が悪化となった。

業況 DI は 9.2 ポイントの悪化で▲14.7、売上ＤＩは 5.4 ポイントの悪化で 2.9、資金繰り DI は 12.2 ポイントの悪化で▲17.7、採算 DI は 3.9 ポイントの悪化で▲20.6 となった。

来期見通しについては、資金繰り DI は 0.1 ポイントの改善、採算 DI は横ばい、業況 DI は 5.9 ポイント、売上 DI は 11.8 ポイントそれぞれ悪化となっている。

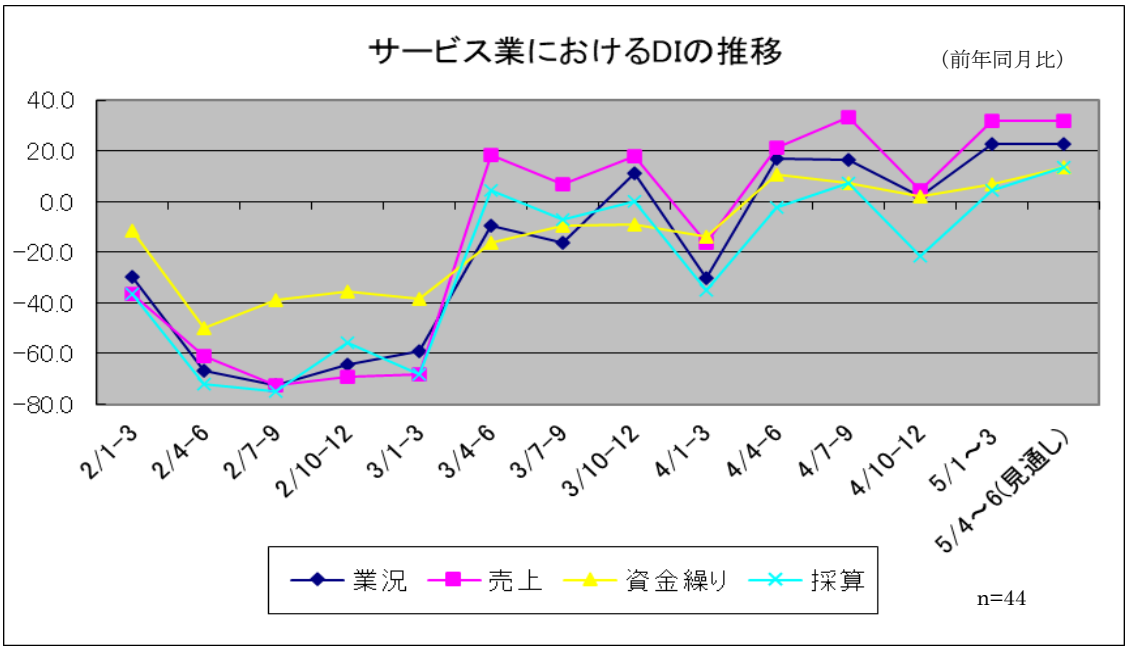


（５）サービス業の動向

サービス業では、全てのDIで改善となった。

業況DIは20.6ポイントの改善で22.7、売上DIは27.4ポイントの改善で31.8、資金繰りDIは4.7ポイントの改善で6.9、採算DIは26.3ポイントの改善で4.6となった。

来期見通しについては、業況DI、売上DIは横ばい、資金繰りDIは6.7ポイント、採算DIは9.0ポイントのそれぞれ改善となっている。



（６）産業別動向総括

前期から今期の動きを見ると、サービス業は全DIが改善したが、一方、小売業は全DIが悪化し、卸売業は売上DIの改善が強かったが他のDIは悪化、建設も悪化の動きとなっている。業種により動きがはっきりと異なった。

来期見通しについては、製造業、卸売業、サービス業は改善、建設業と小売業では悪化となるなど、業種により異なる動きとなっている。

（７）設備投資の実施状況

今期、設備投資を実施したと回答した事業所は33件（25.2%）、前期と同数。

産業別に実施事業所数をみると、製造業2件（12.5%）、建設業6件（35.3%）、卸売業4件（20.0%）、小売業5件（14.7%）、サービス業16件（36.4%）で、前期より実施割合は建設売業とサービス業では上昇したが、他の業種では低下した。

また、実施内容は、OA機器が14件、車両運搬具が11件、設備・倉庫・機械が9件で多かった。

来期に実施を計画している事業所数は42件で、今期より9件の増加となっている。産業別では、製造業は5件、小売業は3件、サービス業は1件のそれぞれ増加、建設業、卸売業は横ばいとなっている。

計画内容は、OA機器と車両運搬具がそれぞれ12件、設備・機械・倉庫が11件、建物が10件で多くなっている。

（8）今期直面している経営上の問題点

経営上の問題点をみると、仕入単価の上昇や原材料価格、需要の停滞、従業員確保難、ニーズへの対応が上位を占めている。

順位 産　業	1位	2位	3位
製造業	原料価格上昇	需要の停滞	ニーズへの対応
建設業	材料価格上昇	従業員確保難	熟練技術者確保難
卸売業	仕入単価上昇	需要の停滞	従業員確保難
小売業	仕入単価上昇	ニーズへの対応	需要の停滞
サービス業	仕入単価上昇	人件費以外の経費増加	従業員確保難